

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：24402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17187

研究課題名(和文) 芸術の制度転換の歴史社会学：1940年代前後のニューヨーク市を事例として

研究課題名(英文) Institutional Changes of Arts in the New York City from the 1920 to 1970s

研究代表者

笹島 秀晃 (Sasajima, Hideaki)

大阪市立大学・大学院文学研究科・講師

研究者番号：30614656

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：ニューヨーク市の芸術業界に関する一次資料を、Archive of American Artを中心に閲覧・分析し、第二次大戦中頃から一貫して進展する変化を記述した。すなわち、ニューヨーク市が世界の作品売買の中心地となることで、画廊・芸術家が増加するなど、量的に拡大する過程である。こうした量的拡大は、脱工業化や自治体政策といった要因だけではなく、グローバルな芸術市場の構造変動により、ニューヨーク市の芸術業界に内在的な変化が生じたことに起因していたことを明らかにした。また、芸術業界の量的拡大は、結果的に、さまざまな価値観・美的思考を持つ芸術家や画廊経営者の数を増加させ、業界の多様化を進展させた。

研究成果の概要(英文)：I examined institutional changes of arts in the New York City from the 1920s to 1970s, through analyzing archival materials in Archive of American Arts. Especially, I identified the expansion of art worlds in the New York City, which is caused by the emergence of global arts markets and agglomeration of activities of buying and selling art works in New York City.

The expansion of art worlds has not necessarily been created by post-industrialization processes of economy or municipal government policies, which have argued in existing studies. But also internal transformation processes of art worlds are quite important. My research also has examined the expansion of art worlds increased artists and alternative spaces that had various values and aesthetics and then contributed to diversify New York's art worlds.

研究分野：都市社会学、芸術社会学

キーワード：芸術 制度転換 ニューヨーク市 20世紀 画廊 オルタナティブ・スペース SoHo

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の都市社会学は 20 世紀後半の文化に関わる都市環境の変化をテーマとしてきた。そこでは、主に英語圏の都市事例に注目しつつ、都市経済の活性化を目指した自治体による美術館建設や文化産業に対する助成事業など、都市における文化的消費機会（芸術・飲食業・ファッション）の形成が都市経営において重要な争点になる状況を分析してきた。

(2) なかでも重要な先行研究は、S・ズーキンによるものである。ズーキンは、こうした都市と文化をめぐる状況の変化を「経済的基盤として文化を活用する」都市の増加と表現し、現代社会における典型的な都市的状况として検討を加えた（*The Culture of Cities*, 1995）。その他にも D・ハーヴェイの *The Condition of Postmodernity* (1989)、R・フロリダの *The Rise of Creative Class* (2003)、T・N・クラークの *The City as an Entertainment Machine* (2004) は代表的研究である。

(3) こうした先行研究における主要論点の一つは、脱工業化といった 1970 年代前半のグローバルな社会変動に着目し、都市において文化が重要な資源として見出され活用されるに至る歴史的経緯を解明することであった。

(4) 具体的に、先行研究の知見は「脱工業化仮説」と「自治体政治戦略仮説」に整理することができる。脱工業化仮説とは、グローバルな産業再編成の帰結として、都市経済の基盤が製造業からサービス産業・文化産業へ移行したことに着目するものである。自治体政治戦略仮説とは、都心回帰の動向のなかで税収増・集票をめざし、ホワイトカラー層流入の誘因となる文化的サービスの提供に尽力する自治体施策の転換に着目したものである。

(5) ただし二つの知見は、1970 年代の都市変動に至る過程を解明するという点においては重要ではあるものの、一つの側面を解明したに過ぎない。とくに、都市と文化という点に着目するならば、実証的な検討の余地が多分に残されていた。したがって、申請者は、1970 年代に生じた都市と文化の変動の要因を解明するために研究を行ってきた

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、アメリカ合衆国ニューヨーク市における 1940 年代以前 (1920-45) と 1940 年代以後 (1945-70) の芸術をめぐる制度転換の要因を解明することである。ア

メリカの事例を選択した理由は、先行研究の中でも取り上げられることが多く、先行研究との関係の中であらな知見を示すために有用な事例になると考えたためである。

(2) 先述のとおり、近年の都市社会学では「経済的基盤として文化を活用する」現代都市の歴史的起源を解明するにあたって、1970 年代における脱工業化の進展など政治経済的要因に着目してきた。しかし、申請者がこれまで行ってきた研究を踏まえると、1970 年代の都市をめぐる政治経済の変動は、1940 年代以降一貫して進展する芸術制度の変化を踏襲し利用することではじめて機能した可能性がある。そこで、本研究では、1940 年代の芸術領域における分水嶺の持つ意義を検討し、都市と文化をめぐる今日的関係の起源について新たな見解を示すことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 1940 年代以前 (1920-1945) と 1940 年代以後 (1945-1970) のあいだの、ニューヨーク市における絵画・舞台芸術・音楽の制度転換（作品をめぐる生産・流通・消費の関係性、産業・組織・職業の変化）の実態と転換の要因を解明するために、アーカイブ所蔵の一次資料を収集し分析する。

(2) なお、1940 年代以前・以後の芸術制度を研究する際にもっとも問題となるのは、包括的な歴史資料が欠如している点である。ニューヨーク市の芸術制度を担った主要なプレーヤーは、連邦・州・自治体 - 美術館 - 画商 - 地域の名士 (パトロン) - 美術教育機関 - 芸術家 - 批評家の 7 グループに整理することが可能である。

(3) したがって、1940 年代前後の芸術をめぐる制度を把握するために必要となるのは、7 グループの動向を最低限把握するための一次資料・二次文献の収集・整理であった。これらに関する一次資料はオンライン上で閲覧可能なものも多数あるが、基本的には Archive of American Art、New York Public Library で収集した。

4. 研究成果

(1) ニューヨーク市の美術制度の変化を解明するにあたって、本研究では特に、ニューヨーク市 SoHo 地区の 1960 年代から 70 年代の空間変動にいたる過程を中心に分析した。

(2) 1950 年代頃まで製造業の集積地区であった SoHo は、第二次大戦後一貫して進展した

米国の脱工業化の流れの中で空洞化が進んでいた。しかし、1960年代頃から、工場の空き物件といったような、広いスペースを持ちつつ安価な物件が若手の芸術家たちを引き寄せることとなった。そのことによって SoHo 地区には、芸術家のコミュニティが形成されることとなった。1970年頃になると、芸術家コミュニティの存在が地元メディアで報じられるところとなり、寂れた工場地区から芸術の空間へと場所のイメージが転換する中で、飲食店があつまり、数年後には絵画の売買を行う商業画廊が集積した。1970年代後半になると、画廊の集積が一層加速する中で地価も上昇し、ニューヨーク市を代表する一大画廊街となった。

(3) SoHo の空間変動は、先行研究の枠組みでは、脱工業化と自治体政治戦略の二つの観点から説明されてきた。本研究では、先行研究にないニューヨーク市における芸術業界の変化に注目して、SoHo の空間変動のメカニズムを明らかにした【雑誌論文】。

(4) 具体的には、ニューヨーク市の画廊経営者に関する一次資料を、Archive of American Art を中心に閲覧・分析し、第二次大戦中頃から一貫して進展する芸術業界の変化を記述した。すなわち、ニューヨーク市の芸術業界が、世界の作品売買の中心地となることで、作品を取り扱う画廊数が増加し、芸術家の数も増加するなど、量的に拡大する過程である（図1参照）。

(5) こうした量的拡大の要因は、都市社会学における先行研究で指摘されてきたような、脱工業化や自治体政策によるばかりではなく、グローバルな芸術市場の拡大により、ニューヨーク市の芸術業界における構造変動が生じた点であった。

(6) しかし、芸術業界の量的拡大は、さまざまな価値観・美的思考を持つ芸術家や画廊経営者の数を増加させ、業界の多様化を進展させるという変化ももたらした。

(7) 特に、重要な変化であったのが、作品の売買によって利益を得ている商業画廊ではなく、エスニシティやセクシュアリティなど、マイノリティの政治的なテーマを掲げた営利活動を目的としないオルタナティブ・スペースの増加であった。オルタナティブ・スペースは、芸術家自身によって運営されることが多く、先述した、量的拡大に伴う芸術業界の商業化に対する反動によって出現が促されたものであった。

(8) こうした知見が、本研究にとって何よりも重要なのは、都市社会学における先行研究で示されてきたような政治経済的要因といった文化に外在する変数から、1970年代にい

たる都市と文化の変化を記述するのではなく、文化（とくに芸術）に内在する論理に注目して、その変化を説明し得たことである。

(9) 本科研プロジェクトの年限では、十分な研究成果の発信ができなかったが、新たな科研プロジェクトに今回入手したデータや知見が大いに生かされており、近日中に、いくつかの論文や学会での発表を行う予定である。

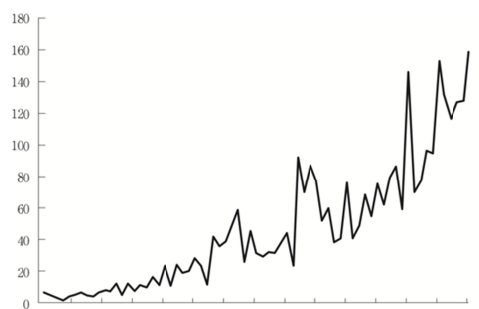


図1 マンハッタンにおける美術展示施設の新規開設数の推移（1940-2010）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

笹島秀晃、ニューヨーク市 SoHo 地区における芸術家街を契機としたジェントリフィケーション：1965-1971 年における画廊の集積過程に着目して、社会学評論、査読有、第 67 巻、第 1 号、pp.106-121

〔学会発表〕（計 7 件）

笹島秀晃、20 世紀前半の日本における都市富裕層の芸術に対するフィランソロピーの理念と実践、2017、第 68 回関西社会学会、神戸学院大学

笹島秀晃、芸術社会学における制度変化の理論の射程、2016、第 89 回日本社会学大会、九州大学

Hideaki Sasajima, Institutional Changes of the Arts in NYC before and after WW2, 2016, The 3rd ISA Forum of Sociology, University of Vienna

笹島秀晃、アートプロジェクトを参与観察する、2016、公開シンポジウム「社会

とかかわるアートを考える』大阪府立江
之子島文化芸術創造センター

Hideaki Sasajima, Cultural Aspect of
Artist-led Gentrification in SoHo
between the 1950s and 1970s: A Field
Analysis of the Agglomeration
Processes of Art Venues, 2015, The
ISA RC21 Conference2015, University of
Urbino

笹島秀晃、芸術の生産を説明する三つの
社会学概念の比較:「アート・ワールド」・
「文化生産の界」・「組織・制度」、2015、
第62回東北社会学会大会、東北大学

笹島秀晃、ジェントリフィケーションに
よって都市は何を失うのか:近年のニュ
ーヨーク市の都市変化を手掛かりに、
2015、公開シンポジウム「続・都市が壊
れるとき:ジェントリフィケーションと
現代都市」、大阪市立大学文化交流センタ
ー

〔その他〕(計 2 件)

笹島秀晃、書評:田村公人著『都市の舞
台俳優たち』、日本都市社会学会年報、
2016、pp.157-9

笹島秀晃、ジェントリフィケーション、
伊藤守ほか編『コミュニティ事典』春風
社、2017、pp.898-9

6. 研究組織

(1)研究代表者

笹島 秀晃 (SASAJIMA, Hideaki)
大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号:30614656